

○登場人物

・風見仁(30歳) 珈琲の移動販売(キッチンカー)で全国を旅している。飄々とした振る舞いだが、旅の目的は「夢探し」であり、色々な出来事に自ら巻き込まれに行く。

・クラマ(?歳) 村で祀られている豊穣を司る狐の神。一人称・儂。貫禄のある口調だが、若者言葉をよく使う。余裕のある振る舞い、物事を達観するが好奇心旺盛な性格。好物はサバの味噌煮、ピーマンの肉詰め。流行には敏感。

・その他(村人たち)

『珈琲ダイアリー 珈琲屋と狐』

シーン1

村の入り口

（仁がキッチンカーを運転しながら村に入る。
村人たちが集まっているのが見える。）

仁…（独り言）ここが豊作祈願の祭があるって
聞いた村か。なんか妙に静かだな。

村人A…（仁に気づいて近寄り）おい、あん
た、旅人かい？ここに何しに来たんだ？

仁…（笑顔で）俺は珈琲の移動販売をしてる
んだ。祭があるって聞いて来てみたんだけど、
なんか様子が変だな。

村人B…（ため息）祭はあるにはあるけど、今
年は不作でみんな困ってるんだ。作物が全然
育たないんだよ。

仁…そりゃ大変だな。何か手伝えることがあ
れば言ってくれよ。とりあえず、コーヒーでも
飲んで落ち着こうか。

村人A：（興味津々で）コーヒー？それはいいね！最近、元気が出るものが欲しかったんだ。

村人B：（仲間に呼びかけて）みんな、この人のコーヒーを飲んでみよう！

（村人たちが興味津々でキッチンカーに集まる。仁は手際よくコーヒーを淹れ始める。）

シーン2

仁のキッチンカー

（仁が店を開いて営業中、クラマが女性の姿で来店する。）

クラマ…（微笑んで）こんにちはは、コーヒー一杯
いただけますか？

仁…もちろん！どんな味が好み？

クラマ…お任せするよ。ところで、あんた面白い人だね。この村の人間じゃないだろ？

仁…ああ、旅の途中で寄っただけさ。俺は風見仁。ところで、あんたは？

クラマ…儂か？儂はこの村で祀られている狐の神、クラマだ。

仁…えっ、本当に？（驚きながらも興味津々）それはびつくりだな。神様がこんな普通の格好で現れるなんて。

クラマ…（笑いながら）部外者のあんたには特別に姿を見せたんじゃない。村の者たちは儂の姿を見ることはできん。

仁…なるほどね。ところで、村人たちは不作で困ってるみたいだけど、それに関係あるのか？

クラマ…（ため息）実はそうなんじゃ。作物育てたり、天候操るの疲れた！捧げものが油揚げばかりで飽きた！食い足りん！信仰心が薄い！もっと崇めて欲しい！祭が地味！不満だらけじゃ！

仁…（真剣に聞きながら）それでストライキを起こしたんだね。うーん、それは大変だ。でも、どうやって解決しようか。

クラマ…農としては、村人たちがもう少し工夫してくれれば嬉しいんじゃがのう。

仁…よし、分かった。俺がなんとかする。君の不満を村人たちに伝えてみるよ。

シーン3

村の広場

(仁が村人たちに話しかける。)

仁…みんな、ちょっと話を聞いてくれ。

村人A…(不安そうに)どうしたんだ、旅人さん？

仁…実は俺、旅する陰陽師で、クラマ様の声を聴いたんだ。

村人B…本当か！？

村人C…それなら、どうしてこんなに不作なのか教えてくれよ！

仁…クラマ様がストライキを起こしたんだ。疲れているし、捧げものが単調だし、信仰心も薄い。だから不満が溜まってるんだよ。

村人D…それで、どうすればいいんだ？

仁…油揚げ以外の料理を捧げること。

信仰心を高め、クラマ様へ感謝の念を強く持つこと。

農業を人間の力だけで出来る限り精一杯やること。

村人ロ…よし、やってみよう。クラマ様のために！

村人の…みんなで協力しよう！

（村人たちが一斉に動き出し、それぞれの役割を果たす。）

シーン4

祭の日

（村人たちが自慢の料理を持ち寄る。）

村人A：（誇らしげに）見てくれ、この特製の
サバの味噌煮だ！

村人B：俺のはピーマンの肉詰めさ！

クラマ：（大喜びで）ほほう、これは素晴らしい。
儂の大好物ばかりじゃ。皆の信仰心も感
じる。約束通り、作物を豊かにしてやるぞ。

村人たち：（一斉に）クラマ様、ありがとう！

数日後

（仁がキッチンカーを準備しながら。）

仁：なんか地味に疲れたけど、ま、いいか。ま
た次の旅に出よう。

（キッチンカーを運転して去る。村人たちが見送る。）

村人の…あの旅人、実はただのコーヒー屋だったんじゃないか？

村人口…まあ、いいじゃないか。結果的に豊作になったんだから。

（みんな笑いながら見送る。）

（幕）